

# 地域福祉実践研究

## フォーラム

2024  
in みえ

つながる。そして、その先へ。  
～現実から想像し創造する力～

近年、「制度の狭間」の問題をはじめとした、複雑化・複合化した生活課題への対応が求められています。そのような中で、昨今の大規模災害の頻発化に伴い、災害時における福祉活動の重要性も増しています。災害発生時には、様々な支援ニーズへの対応が求められますが、迅速かつ効果的な対応を行うためには、平常時より包括的な支援体制の整備を目指した取り組みが重要となります。

本フォーラムでは、令和6年1月に発生した能登半島地震の体験から「災害時の福祉活動」と「被災地支援」をメインテーマとし、地域社会における包括的な支援体制のあり方について検討するとともに、東海北陸ブロックの福祉関係者が実践研究を通じて共に学び合い、地域福祉の推進を目的として開催します。

2024

10.19 (土) ▶ 20 (日)

会場 1日目: 三重県教育文化会館 (三重県津市桜橋2-142)

2日目: 三重県社会福祉会館 (三重県津市桜橋2-131)

対象 東海北陸ブロック内の地域福祉関係者

福祉施設職員・福祉事業関係者・社会福祉協議会役職員・地域福祉実践研究者  
ボランティア・市民活動実践者・地域福祉に関心のある方 (学生・市民)

参加費 1,000円(当日、受付にて申し受けます) ※学生・三重県地域福祉研究会正会員 無料

### 1日目 10月19日(土)

- 13:00～13:30 受付
- 13:30～13:45 開会式
- 13:45～15:00 基調講演
- 15:15～17:15 シンポジウム
- 17:15 終了
- (会場移動)
- 18:00～20:00 懇親会(任意)

### 2日目 10月20日(日)

- 9:00～10:45 分科会
- 11:00～11:45 全体会(2日間の統括)
- 11:45～12:00 閉会式
- 12:00 閉会

1 day

10月19日(土)

## 基調講演

### 「災害時を見据えた包括的な支援体制のあり方」

昨今の大規模災害の頻発化に伴い、災害時における福祉活動の重要性は増しています。災害時の福祉支援はシステム化が進みつつありますが、従来の支援だけでは十分な対応を取ることが難しい状況です。

基調講演では、今後の災害時の対応を含めた包括的な支援体制のあり方の全国的な動向を学び、地域福祉関係者が、何を、どのように取り組んでいくべきかを考える契機とします。

講師

日本福祉大学 学長 原田 正樹 氏

(日本地域福祉学会 東海北陸部会担当理事)

## シンポジウム

### 「能登とのつながりから見えてくるもの～初動から助け合い体制づくりまで～」

このシンポジウムでは、能登地方において発災から現在まで地域住民、行政、そして民間団体が協力して取り組んできた支援活動や災害ボランティアセンターの実例を通じて、被災地支援のあり方を共に考え合います。

そして、三重県で発災した場合に何が求められるのか、地形的状況、自治体間の連携や地域住民の支え合いなど、様々な視点から検討することで、今後に向けた展望を模索します。

コーディネーター

神戸学院大学 総合リハビリテーション学部 准教授

川本 健太郎 氏

登壇者

輪島市社会福祉協議会 事務局長 田中 昭二 氏

紀宝町社会福祉協議会(三重県地域福祉研究会 事務局長) 名取 雅博 氏

三重大学 地域イノベーション学研究科 准教授 水木 千春 氏

(特非) みえ防災市民会議 議長 山本 康史 氏

懇親会

希望者のみ(申込の際にその旨をご選択ください。)

時 間/18:00~20:00

場 所/津駅周辺

参加費/5,000円(会場にて申し受けます。)

講師等も交え、参加者同士の親睦を深めます。

本音で楽しく語り合いましょう!

2<sub>day</sub>

10月20日(日)

## 分科会

### 第1分科会

#### 「災害ボラセンの予算、それで大丈夫!? 能登半島地震でわかった課題と、 被災者支援活動を飛躍させる『お金』の話」

これまで、災害ボランティアセンターの立ち上げの準備については、マニュアル作成や訓練も含め、様々な場面で行われてきました。しかし、近年、被災を経験し、災害ボランティアセンターの立ち上げや被災者支援活動を行なった地域からは、「お金の準備」の不十分さに関する指摘に加え、支援金の寄付金獲得による被災者支援活動の効果への驚きに関する声が聞こえてくるようになってきました。そこで、本分科会では、西日本豪雨や熊本豪雨、そして能登半島地震等において、災害ボランティアセンターの支援金ファンドレイジング・サポートを行なってきた久津摩和弘氏を迎え、能登半島地震で被災しながら支援金募集やクラウドファンディングを行い、手厚い被災者支援活動をしている氷見市社協の事例と、同じく能登半島にある輪島市社協の支援金募集のサポート活動等を行った伊賀市社協の事例をもとに、災害時における「お金」の課題と可能性について学びます。

登壇者

(一社) 日本地域福祉ファンドレイジングネットワーク COMMNET

理事長 久津摩和弘氏

氷見市社会福祉協議会  
(総務・企画課 副主幹)

飯田奈緒氏

伊賀市社会福祉協議会  
(ファンドレイジングマネージャー)

一見俊介氏

### 第2分科会

#### 「活動の目的や成果をうまく伝えられますか? ~ロジックモデルの活用~」

多くの市町村では重層的支援体制整備事業に取り組まれるなか、地域住民や企業・NPOなどと業務の枠組みや分野を超えて多くの人たちとともに取り組む福祉支援体制の構築が求められています。住民や行政、関係団体等が連携して活動を行っていくためには、目指す姿やそこに至るまでのプロセス、成果を明確にすることで、同じ思いを持って取り組むことが大切ではないでしょうか。本分科会では、プログラム評価で用いられているロジックモデルの活用について学び、地域福祉における評価の視点について考えます。

登壇者

日本社会事業大学 社会福祉学部 講師 新藤健太氏

2<sup>day</sup>

10月20日(日)

## 分科会

### 第3分科会

#### 「私たち何？え？“チーム友達” ～地域ネットワークの構築について～」

昨今、わが国は少子高齢化、ライフスタイルの多様化が進んでいます。また、将来的には更なる人口減少が見込まれるとともに、社会的孤立・孤独の表出も問題となってきています。そのような中で、地域福祉関係者は地域におけるつながりやネットワークを構築あるいは再構築し、各地域における支え合い、助け合う仕組みを維持・創造していく必要があります。

本分科会では、参加者によるコミュニティコーピングを通して、地域の課題について共有した後、地域におけるネットワークの作り方、人材確保の方法等について話し合います。そして、本分科会を通して、ブロック内の若手ネットワークの構築を目指します。

## 全体会

### 「振り返りと気づき」

2日間の学びを共有して、私たちには何ができるのか、何をすべきなのか、今後の実践の方向性を確認し合います。

登壇者

関西学院大学 名誉教授 牧里 每治 氏  
(三重県地域福祉研究会 顧問)

各分科会の担当者

## 参加申込 ※申込締切／令和6年10月4日(金)

記載の二次元コードまたは、下記 URL から「申込フォーム」にアクセスし必要事項をご入力の上送信してください。ご登録いただいたアドレスへ自動返信メールが届きます。

なお、他の方法で申込を希望される方は、事務局へお問い合わせください。

申込フォーム URL: <https://forms.gle/wiBceZHsuMmJVwZu9>

※宿泊を希望される方は、各自でご手配ください。



お申し込み

## その他

分科会や実践・研究発表、当日の様子を随時フェイスブックでお知らせします！  
ぜひ「いいね！」を！

三重県地域福祉研究会フェイスブックページはこちら (<https://www.facebook.com/mie.rscd>)

問合せ先

三重県地域福祉研究会事務局(三重県社会福祉協議会内) 橋本・山口  
〒514-8552 三重県津市桜橋2-131 TEL:059-227-5145 FAX:059-227-6618  
E-mail/mie.rscd@gmail.com